

# 観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成23年11月25日(金) 10:03~12:02

開催場所 第1委員会室

出席委員 7名

藤本 昭広 委員長

粒谷 友示 副委員長

阪口 保 委員

猪奥 美里 委員

小林 照代 委員

鍵田忠兵衛 委員

和田 恵治 委員

欠席委員 2名

上田 悟 委員

岩田 国夫 委員

出席理事者 中山 観光局長

上田 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

## 議 事

(1) 11月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

### 〈質疑応答〉

○藤本委員長 それでは、ただいまの理事者の説明、報告またはその他の事項も含めまして、質疑があれば各委員のご発言をお願いします。

○和田委員 11月定例県議会提出予定議案について説明をいただきました。この件につきましては、異論はなく、賛成としたいと思います。どうぞしっかりと頑張ってください。

その他の事項にかかわりまして、質問、あるいは要望をしたいと思います。

先般、10月20日から中国陝西省へ日本考古展のオープニングのために、西安市に行っていました。奥田副知事を団長としまして、県議会議員3人、冬柴元国土交通大臣、県職員関係者及び樞原考古学研究所の皆さん方と一緒に参加したわけでございます。大変

歓迎され、この日本考古展の開催につきましては、非常に注目を集めて、初日から大盛況であったように受けとめました。

あの日本考古展が開催されるにあたっては、もちろん西安市と平城京の関係や、奈良県と陝西省との友好提携を目的とした話だろうと思うのですが、西安市での日本考古展は、日本の古代の文物を紹介するということでございましたが、このような形で開催できたのは、恐らく樞原考古学研究所と陝西省の歴史博物館との学術的な交流がしっかり行われており、その成果ではないかと思うわけです。

つまり、ここで学ばねばならないのは、陝西省と奈良県との友好提携が非常に歓迎されているのは、基礎に地道な学術交流があり、これが大きな成果として生まれているからで、これからの国際交流を進めていく1つの方法としては、単に友好というだけで提携をするだけではなくて、文化面からであれば、奈良県は文化財、秘宝秘伝が豊かですから、文化研究を基本とした交流をしっかりとやっていく、このことが奈良県のこれから東南アジアとの友好関係を築く上で、大切な交流基盤の要素ではないかと思います。今回、この成功につきましては、そのように学びました。

やはり奈良県の武器は何といっても文化にあるわけですから、単にあちらこちらでイベントを起こすのではなくて、歴史と文化という視点でこれからの交流の基礎を築き上げていただきたいと思う次第です。観光局長の他、この中で行かれた方がいらっしゃったら、見解を述べていただきたいと思います。

それからもう一つ、陝西省と奈良県がこのように友好提携をし、せっかくここまで盛り上がり、また、こうしてお互いに交流し合いましたとなったわけだから、今度は観光という形で促進していかなければならないと思うのです。そうしますと、10月20日に陝西省に出発した際には、朝5時ごろに起きて、6時に家を出て、関西空港から上海へ入り、入国手続を終え、更に西安市まで飛び、くたくたになりました。この時間を短縮するためには、やっぱり関西空港から西安市への直行便があれば、奈良県と陝西省西安市との交流がますます盛んになるのではないかと。そういう意味で直行便を飛ばすようなことも考え、政府に要望してはどうだろうか。

特に知事自身も東南アジアとの地方政府会合ということもおっしゃっているわけです。内容はまだよくわかりませんが、メッセージを受けとめるにはちょっと心に響くような状況ではございません。しかし、それは質問として出したものではございません。要は東南アジア地方政府会合との協力、協調体制を築くという意味でも、特に中国と韓国は奈良県

としても提携を結んだわけですから、直行便というものをぜひとも考えて、移動時間の短縮をしていただきたいと思いますというわけです。そういう意味でご見解をいただきたいと思います。以上でございます。

○中山観光局長 中国の陝西省との交流ですが、友好提携をことしの9月に締結しました。交流の協定書があり、お互いに、交流によるメリットを引き出していくことが大切かと思えます。そういう観点からいいますと、中国の陝西省西安市、平城京がモデルにした都で昔の長安ですが、奈良との深い歴史的な交流があるということで、今後活発に相互交流を進めていけたらと考えております。お互いのメリットを引き出し合う観点が重要だと思えます。

今回の日本考古展、その詳細は後で教育委員会からさせていただきたいと思います。その前には2011西安世界園芸博覧会も行われました。そのような奈良と中国とのゆかりを活用した交流を市民レベルで進められたら、さらに交流が活発になってくると思えます。

先ほどの直行便について、これはビジネスになることが重要です。行きの便に乗っても、帰りの便がからではだめで、要は中国からも観光客が来ていただかないとだめなので、そういう観点で活発な交流がなければ、ビジネスとして成立しません。航空会社へ直行便の申し出を要望としてさせていただき、国も観光庁が所管しておりますので、相互交流を活発にさせていき、要望していきたい。

また歴史、文化だけではなく、協定書には経済交流やスポーツ交流等、さまざまな交流があると思えます。そういう内容も最初のきっかけはゆかりということですが、実務者会議なりが、具体的な交流を深める中で、広がってくると思えます。

それと先ほどの東アジア地方政府会合の話についても、やはり奈良らしい独自性のある取り組みをすることにより、お互いにとって効果のある会議になってくることによって、交流が深まってくると思えます。以上です。

○和田委員 このたびの日本考古展は成功をおさめておりますが、ベースとなる地道な取り組みや交流がしっかりできておれば、その上に立って計画、企画を立てていくと成功しやすいのかと思ったりもいたします。思うだけではなく、これは大切な取り組みだと、今回学んだ教訓だと皆さんに伝えておきたいと思えます。

次に、政府予算編成に関する提案・要望が出ておりますので、これに関連して、観光振興にかかわる話をさせていただきます。

この資料の中で、明日香村の現状として、最近では人口が少し伸び悩んでおり、観光客数も減ってきているとなっています。

奈良県として、明日香村をさらに整備し、観光客誘致のために対策等を頑張っていこうとあり、これは大変いいことだし、本当に頑張ってくださいたい。奈良県の観光振興の牽引となるのは平城宮跡だけではなくて、飛鳥も観光の目玉だと思っております。

また別の機会にも問題提起をしたいと思っておりますが、飛鳥の歴史も含めて記紀・万葉プロジェクト事業についてです。いよいよ、来年から本格的に古事記編さん1300年を迎えることになるわけで、県では予算編成に取りかかり始めたのではないかと思います。この事業の展開については、やはり歴史の対象となる飛鳥、藤原宮跡、そして桜井市、この辺を重点的にこれから力をいれていかなければならない。とりわけ古事記編さんについては来年度が始まりで、記紀・万葉プロジェクトが本格的にスタートするものですから、ただらとした展開ではなくて、思い切ったアドバルーンを打ち上げて勢いをつけて、これからの9年の始まりをつくっていただく必要があるのではないかと思います。

現在、記紀・万葉プロジェクト事業についてはこれからの9年、どのように進めていくのか。本会議の知事答弁でも、ことし1年はこのような形で整理をしながら、以下9年の展開をにらんで計画と、その方向性を見定めていきたいという趣旨の答弁をいただいております。その点、ご説明いただけるものならいただきたいと思っております。

**○中山観光局長** 記紀・万葉プロジェクトについてのご質問です。来年の、2012年が古事記編さん1300年ということで、奈良県にとっては、記紀の本家ということで、大きな1つのチャンスかと思っております。そういう観点で、記紀・万葉に関わる観光資源が県内にたくさんあると。特に今、委員がおっしゃったように、中南和地域にはたくさんあります。来年度以降は、古事記、日本書紀、万葉集を通じて地域を見直し、それを市町村、地域の方とともに、地域の観光資源を磨き上げて全国へ発信していきたいと考えております。これを9年間の長期プロジェクトで積極的にやっていきたいと思っております。

それと全国にも記紀・万葉のゆかりの地はたくさんありますので、そういうところともお互い連携しながら、奈良県が目立つような取り組みに仕立てていきたいと思っております。観光資源を磨き上げる過程では、やはり感動を覚えたり、楽しくなったりと、例えば人物をテーマにした物語性やストーリー性という観点で記紀・万葉を発信していけたらと。編集することも大切かと考えております。来年度以降、スタート年にはそのように打ち出していきたいと考えております。以上です。

○和田委員 来年は古事記編さん1300年ですから、スタートダッシュと予算措置をしっかりやっていただくことをまず要望しておきます。

これからの展開には、来訪者をどんどん奈良県内に呼び寄せていく観光振興がやっぱり重要だろうと思います。その上では、環境整備が大変重要ですし、環境整備の中でも特に観光のまちづくりが重要です。奈良町などでは早くからまちづくりに着手され、成功されており、本当にすばらしくよみがえってまいりました。その小型版ではないですが、あの町やあの地域は本当にすばらしいおもてなしをさせていただいているところだ、すばらしいなど言ってもらえるように。しかし、中南和地域に行きますと、観光バスが駐車できて、トイレ休憩、あるいは土産物を買えるような場所がございません。そういう意味でもあちらこちらへ行ったときに喜んでいただけるようなまちづくりが重要でございます。

これまで2度、3度と繰り返し言うておりますが、このような観光のまちづくりに対しては、積極的にいろいろな事業メニューを公募するなど、まちづくり運動を活発に呼び起こすような考えを持っておられるのか。その点をお尋ねしたいと思います。

○藤本委員長 申し訳ありませんが、委員の皆さんにはご協力させていただいて、要点をまとめ具体的な質問をしていただき、理事者側も簡潔、的確な答弁をしてくださるようお願いいたします。

○中尾地域デザイン推進課長 まちづくりというご質問でございます。特にまちづくりということになりますと、地元の方々が自分たちの地域の観光にもなり得るような資源をうまく生かしていくことが大事でございますので、例えばまちづくり推進局で町屋等の地域資源の発掘、発信事業などをやりまして、古い街なみでありますとか、あるいは商店街、そういうところで自分たちが余り気づかなかったような資源にもスポットを当てて、それをどう生かしていこうかという取り組みもやっております。例えば本年度では、桜井市の本町通りでありますとか、先ほど言われた奈良のきたまちでもやっておりますし、田原本町でもやっております。

また、奈良町のあたりを含めまして、なら・まちづくりコンシェルジュという、まちづくりをサポートする県職員が、これまでも県内23カ所を回ってまちづくりを支えておりますので、引き続きそのようなサポートをしてまいりたいと思っております。

○藤本委員長 それでは、先ほども申し上げましたように、できるだけ要点を絞って質問をお願いします。

○小林（照）委員 先ほど台風12号による宿泊施設への支援策について報告がありまし

たので、これに関連いたしましてお尋ねしたいと思います。今回の被災で、宿泊者数がどのくらい減少したのかと、それから「奈良県のすがた2011」によりますと、県内の宿泊施設数の26.9%が奈良市で、吉野郡の3町村では25.8%となっており、ほぼ奈良市に匹敵するほど占めています。現在、吉野郡でどのくらいの宿泊者の受け入れが可能なのかと、被害を受けた施設はすべて復旧され、営業を再開されているのでしょうか。ソフト、ハード面両方の支援が必要だと思いますので、先ほど補正予算の中でご報告がありました支援策において、被害を受けた場合にソフト面だけではなくて、やはりハード面の支援が必要です。建物を改修しない限り営業はできないわけで、こうした支援につきましては、被災温泉施設復旧支援事業ということで補助制度が今回出されているのですけれども、十津川村の温泉設備に限定となっているわけです。被災した宿泊施設すべてが大変な状況なので、他にも拡大をしていただきたいと思うのですけれども、十津川村に限定されたのはなぜなのか、その基準があるのか。ぜひ、十津川村以外の宿泊施設への補助制度も拡充していただきたいと思いますが、この点についてはどうでしょうか。以上、お尋ねいたします。

**○中山観光局長** ハード面とソフト面があるということですが、観光局ではソフト面を主にしております。現在の状況は、南部地域への風評被害により、キャンセルとか新規予約が少なくなるようなことで、例年と比較しますと、市町村や施設によってもばらつきがありますが、例年の2割、3割ぐらいになっていると聞いております。プレミアム宿泊旅行券、会議支援など、今回のさまざまな施策により復興の兆しへの効果が徐々に見えてきているかと思えます。

それと南部地域の宿泊施設の定員ですが、276施設で1万4,000人の定員があります。やはり観光の即復興というのが、現金収入ということになり、即効果がありますので、できる限り対策をとっていき、今後とも誘客対策を続けていきたいと考えております。以上です。

**○小林（照）委員** 施設への補助制度については。

**○山本南部振興課長** 被災温泉施設復旧支援事業についてご説明申し上げます。

今回の台風12号によりまして、吉野郡の生業であります林業、観光が大きく被害を受けました。南部振興課としましては、主要な産業であります観光をぜひとも復旧、復興させたいという思いで、今回、観光施設、特に市町村有の観光施設で被害を受けられたところに一応聞き取りを行いまして、そのうち、他の補助金がありませんとか、交付税措置さ

れる有利な起債がないという施設が、十津川温泉の給湯設備でありましたので、そこに補助をしているものでございます。

この給湯設備につきましては、十津川温泉ですと、宿、公衆浴場を合わせまして12軒がご利用なさっておられます。それから湯泉寺温泉でも8軒の民間の宿泊施設がご利用されており、民間への波及も大きいものと考えております。以上でございます。

○藤本委員長 十津川村の温泉だけでなく、ほかの南部地域の温泉施設ではないのかという話です。

○山本南部振興課長 市町村に、市町村有の観光施設で被災を受けた施設に一応聞き取りをしました。そのうち補助制度などがないところは十津川温泉だけでしたので、今回そこに補助したいと考えております。

○小林（照）委員 対象地域の拡充をなぜ求めたかといいますと、実は先日、京都府議会で近畿6府県議員フォーラムがありまして、産業振興の分科会に参加したのですが、奈良県には観光資源がいろいろあり、6府県の中でトップでした。そういう中で、本当にこれを生かしていくことが求められていると思うのです。しかし一方で、奈良県の地域経済レポートによりますと、観光に来ていただける観光客数で宿泊者数が最下位だという、こういう状態が一番の課題になっています。ですから、観光戦略として宿泊力の強化を打ち出されているのだと思います。先日、天川村から私どもに相談、要望がございまして、同僚議員が訪ねて行き聞き取りをしました。そうしますと、ペンションがつぶれて途方に暮れたと。そこは住宅でなく、住民票がないということで、被災者生活再建支援法では支援の対象にならないと。2カ月半、数百万円をかけてやっと営業再開にこぎつけたということなのですけれども、このように資本力がない小規模なペンションとか民宿などの宿泊施設、そういうところへの被害もまだまだあったのではないかと思います。そういう状況もつかんでいただきたいと思います。もし資本力がなくて、建てかえもできなかったときには、継続して営業できなくなったり、または宿泊者の受け入れが減少するわけです。だから廃業に追い込まれるようなことは避けなければならないと思いますけれども、聞き取りをしたような事実、実態が現にございますので、支援事業の補助制度はぜひ、被災者宿泊施設のすべてを対象に拡充していただきたい。小規模であるほど立ち直ることが本当に深刻ではないかと思いますので、そのことを強く要望しておきたいと思います。

○鍵田委員 奈良県は今、非常に奈良公園に対して力を注いでいただいている。今までの奈良県は、奈良公園をほったらかしにしていたわけではないけれど、今ほど力が入ってい

なかったわけであります。そんな中での奈良公園基本戦略において、検討会も3回やっていただいて、12月には素案策定となっていくわけでありますけれど、検討委員会の中で何か重要な、具体的な項目で上がっているものが何かあれば、お答えいただけたらありがたい。

それから9月議会でも質問をさせていただきましたが、公園管理事務所については、来年度に向けて検討をさせていただいているわけでありますが、その後、特に進んだ点があればお知らせいただきたい。

それともう1点、大仏前駐車場の問題でありますけれど、もともとは普通乗用車も入れましたが、今は普通乗用車は入れないで、観光バスだけになっています。その観光バスも、予約制で2時間までになっていると思うのですが、その点、今どのようになっているのかお聞かせいただきたい。

それともう1点、同じく駐車場の問題で、登大路観光駐車場を2階建てにする案があり、バスターミナルにするような話も聞いておりますが、そちらはどのような進捗状況になっているのかお答えをいただきたいと思います。

**○中西奈良公園室長** 委員からは、奈良公園の整備検討委員会の中で、具体的にどのようなものが項目として出ているかというご質問でした。ハード面をどうするのかという大きなものは特に出しておりません。それよりも昨日の検討委員会で話があったわけでございますが、奈良公園の持っているポテンシャル、価値についてもっと多くの人に知っていただく必要があると。奈良公園のこれだけある価値を、どのように保存して、そしてどう利活用するのかをもう少し整理した方がいいのではないかと意見が多数出ております。

報告資料のスケジュールでいきますと、第3回の検討委員会が終わりました、もう間もなく策定かという書き方にはなっておりますけれども、まだもう1回ぐらい検討委員会を開く必要があるかとも思っておりますし、学識者による部会についても、もう1～2回開いて、奈良公園の50年、100年後を目指す姿をきちんと整理したいと考えております。

2点目のご質問でございますが、奈良公園管理事務所の移転につきまして、現在の状況ですが、東大寺の北側の苗場に移す方向で、土地の整理及び基本設計をさせていただいている状況でございます。これにつきましても、環境問題や周辺地域とのすり合わせの問題があり、この基本戦略の中で奈良公園の目指すべき姿をしっかりと皆さんに理解していただいた上で、詳細設計に入っていきたいと思っております。以上でございます。

**○東道路・交通環境課長** 2点のご質問をいただきまして、大仏前駐車場の予約制の話と、



あともう1点が登大路駐車場のバスターミナルについてご質問をいただきました。

大仏前駐車場の運用でございますが、ご指摘のとおり、現在、バス専用という形の予約制になっています。予約時間は10分単位で予約をとれるようにしております、乗降をしていただくという形です。時間が合えば駐機も認めている実態でございます。また9月26日から終日予約制を始めたところでございますが、いろいろと修正点も多く上がっておりますので、日々改善をし、より良い運用を図っていきたくと思っております。

あと登大路駐車場のターミナルにつきましては、今年度、基本設計を進めております。現在、駐車場でも少しボーリングの地質調査を始めてございますので、その結果も含めた上で、来年度、実施計画に向けて取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

**○鍵田委員** 大仏前駐車場のことですが、今、予約制でとめる時間は10分単位とおっしゃいました。とめておけるのが10分間ですか。聞くところによると、2時間という話を聞いた覚えがあります。ともかく、何を言いたいかといえば、今まで修学旅行生が奈良公園へ、そして大仏殿へ来られた。それから奈良公園を散策しながら、奈良公園内でお弁当なども食べられたわけです。ところが、バスの駐車時間が決められたために、修学旅行生が奈良公園を散策できる時間がなくなって、お弁当は斑鳩方面やほかへ行って食べているという話があるのです。今までは、修学旅行生が奈良公園にいっぱい行っていた。しかし、時間がとれないということで、奈良公園の散策を割愛してよそへ行っておられる。そういう現状があるのです。ですから、その辺をしっかりと把握していただいて、このすばらしい奈良公園の中で食事をするのも1つの手で、子どもたちにとってみればそれが良い思い出になるでしょう。そういう話は、道路・交通環境課長は聞いておられないかもしれませんが、ともかくそういう実情がありますから、一度ご検討いただきたい。よろしくお願いいたします。

それから、奈良公園整備検討委員会をもう1回やっていただけると、やろうという考えなのか。

**○中西奈良公園室長** そういうつもりで考えてます。

**○鍵田委員** ともかく奈良公園基本戦略をしっかりとつくっていただく。それと地元の方、地元の観光業者の意見も聞いていただいているようには聞いておりますけれど、ただ本当に観光に従事している観光業者さんが入っておられないようにも見えるのです。ですから、その辺、地元で観光に従事しておられる方々の意見もしっかりと聞いた上で、検討してい

ただければありがたいと思います。

シカが歩いている奈良公園は、奈良県民にとれば当たり前に見えるのですが、他府県から来られたら、このようなことは絶対にはないのです、珍しいのです。本当に世界の中で類を見ない奈良公園、これをしっかりと奈良県がリーダーシップを発揮しながら、大変素晴らしいものを、これからも将来にわたって残せるようにやっていただきたいと思っております。以上です。

○猪奥委員 2点お尋ねいたします。

「11月定例県議会提出予定議案の概要」の5ページ、被災地復旧応援ツアーの実施について、これは和歌山県に行かれた分ですが、県内の予定がありましたら教えてください。

2点目は西安市と友好提携を結ばれて、和田委員も行ってこられました。私も先週、月曜日から木曜日まで被災地にまた行かせていただき、宮城県多賀城市の市議会議員さんからは、日ごろの友好協定が災害時にいかに役に立ったかというお話を聞かせていただきました。多賀城市長と奈良市長がすぐに電話でやりとりをして、いろいろなもの、例えばパッカー車が必要だと言って、すぐに送ることができたと。都道府県単位で友好協定を結ぶことは、奈良県はやっていませんが、どういう状況にあるのか教えてください。以上です。

○山本南部振興課長 被災地復旧応援ツアーにつきましては、熊野参道の小辺路という道がございまして、高野山から野迫川村を経由し、十津川村へ入りまして熊野へ入るルートでございます。今回このツアーでは小辺路が災害で荒れておりますので、野迫川村、十津川村あたりの修復のボランティアを兼ねてツアーを催したいということでございます。奈良県内では、野迫川村あるいは十津川村で実施しようと考えております。以上でございます。

○猪奥委員 和歌山県まで行って、和歌山県から奈良方面に戻ってくるということですか。

○山本南部振興課長 実施しますのが3月ぐらいを予定しておりまして、そのときの復旧状況を勘案した上で実施する必要があると思います。十津川村の神納川を中心に北へ上って、復旧の状況によっては途中で引き返す可能性もありますし、野迫川村から南へ行きまして、これもまた復旧状況によっては野迫川村へ戻っていただくかもわかりません。そこは、小辺路そのものの復興状況を見きわめた上で実施したいと考えております。以上でございます。

○中山観光局長 ご質問にございました友好提携の話ですが、県と他の行政機関と契約と

いう形での友好提携はしていないのが現状です。ただ、事業連携は積極的にやっております。例えば平城遷都1300年祭の時でしたら、ゆかりの地域との事業連携を行っており、実際多賀城市とも万葉集のつながりとか、いろいろなつながりがあります。ほかには紀伊半島3県の会議の中で、実際の事業を連携していくことを進めており、効果はあると思います。そういう観点でいろいろな事業を進めていきたいと考えております。

**○猪奥委員** 契約としてきちんと結んでいることで、何かあった際に動きやすいということもあるようです。まだ全国的に都道府県同士の友好協定はないと思いますけれども、今後、議論になってくるかもしれません。奈良県としてもそれも一つの得策であると考えていただければと思います。以上です。

**○阪口委員** 簡潔に2点、質問をいたします。

1点目は、和田委員と中国陝西省西安市での日本考古展に参加をいたしました。和田委員の要望と関連するのですけれども、やはり西安市に行くまで非常に時間がかかるのです。自宅から計算しましたら、約12時間かかったのです。特に上海を経由しますから、そこでの時間のロスが大きく、なかなか行き方もわかりにくかった。今後市民レベルでの交流なり観光客の誘客を進めようと思えば、直行便がぜひ必要かと。それについては、国への要望なりを奈良県からしていただければと思います。

2点目は、西安市以外にも観光客の誘客という意味で、連携を進めておられると思うのですけれども、どこかと連携を深めていく上で、何か意図や考えがあればお聞かせ願いたい。その2点であります。

**○中山観光局長** 先ほども答弁させていただきましたが、直行便ということになれば、実際の事業主体が航空会社ですので、ビジネスとして成り立つかどうか重要で、交流が活発になればビジネスとして成立するので、やはり交流を深めていくことで進めていきたい。そういう中でいろんな関係機関へ積極的に働きかけていきたいと思います。

それともう1点、観光客の誘客という観点ですが、奈良市は陝西省西安市と友好提携しています。それもやはり、ゆかりがあるからですので、奈良とゆかりがあるという観点に主眼的を絞って、積極的に交流を進めていきたいと考えております。以上です。

**○藤本委員長** それでは、和田委員なり阪口委員から話が出ましたように、直行便について、県から広告も含めて、いろいろ要望する努力をしてください。

ほかになれば、これもちまして質疑を終わります。

それでは、理事者の皆さん、ご苦労さまでした。ご退席をさせていただきます。

あと委員の皆さんは残ってください。休憩のあと講演及び委員間討議に入ります。

11:12分 休憩

11:17分 再開

○藤本委員長 それでは、会議を再開します。

本日は、奈良県ビジターズビューローの坂井専務理事にご出席を願いましたので、ご紹介させていただきます。

坂井専務理事には、ご多忙中にもかかわらずご出席いただきましてありがとうございます。

委員会を代表してお礼を申し上げますとともに、本日の調査につきましてよろしくお願いたします。

それでは、ただ今から「奈良県の観光振興と奈良県ビジターズビューローの取り組み」と題しまして、奈良県ビジターズビューローの坂井専務理事にご講演をお願いし、その後、各委員からの質疑を行い、専務理事退席後、委員間討議を行いたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、早速ですが坂井専務理事、よろしくお願いたします。

○坂井専務理事 それでは、本当にこういう素晴らしいといえますか、緊張する会にお招きいただきまして、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。それでは、失礼して座ってお話しさせていただきます。

お手元にレジュメと県からは奈良県のすがた2011と奈良県観光客動態調査報告書を、私からは奈良県のビジターズビューローの取り組みについてという冊子をもとにお話しさせていただきますと思います。

まず、1番、奈良県観光の特性、あわせまして滞在型観光への課題ということでご説明させていただきます。まず、観光の特性では、(1)(2)であります観光客数と宿泊者数、この2つをあわせてご説明をさせていただきたいと思いますが、奈良県に来られるお客様、観光客は、大体3,500万人ぐらいだと思います。昨年度、平成22年度の平城遷都1300年祭におきましては、大変成功裏に終わりました、その会期中は全県で観光客数2,114万人と示されております。まだ完全な年度の数字は出ていないのですけれど、大変楽しみなことだと思います。

(2)、宿泊者数では、年間大体、平成15年以降ぐらいの数字、奈良県のすがた2011の中にもございますけれど、大体3,500万人中320万人のお泊まりということ

になると思います。

3、500万人の観光客から320万人ぐらいの宿泊客ということは、大体7%から9%ぐらいの観光客が来られてお泊まりになっている状態です。

京都府と比べるつもりはないのですが、京都府の宿泊率が大体19.3%ぐらいあります。つまり7,600万人ぐらいの観光客が来て、宿泊者数が1,479万人ということです。対して奈良県は宿泊率が7%から9%で、京都府は宿泊者数の歩どまりが大変高い、そのような状況かと思えます。

それで(3)、宿泊の来訪者の地域ですけれど、これはもう圧倒的に、40%以上が関東地区からの宿泊のお客様です。

それから(4)、修学旅行ですけれど、これも宿泊者数は大体22万人ぐらいでございます。1人当たりの平均の宿泊数が1日から1.4日ということなので、かなりの学校が京都とセットで来ているということです。例えば、中学生で2泊3日の修学旅行であれば1泊が京都で1泊は奈良と、このような感じかと。

それから(5)、有望市場における人気度ということなのですが、これはいろいろヒアリングをとってみたら、意外と子育て後の夫婦の方とかお友達同士とかということで、一番は大人、もしくは熟年、シルバー世代、この辺の方たちが、奈良にとってはこれからのマーケットになるのではないかということと、それから高額消費の可能性というテーマを展開しているのですが、たくさんではありませんが、連泊が以外と多いのです。以外と連泊しているということで、それはご親戚の家とか、ひょっとしたら、ドミトリーのようなところに泊まっている。これも数としては少ないのですが、こういう形態が、今後これからのテーマかもわからないと、このように考えています。

次に(7)、コンベンションによる効果ですけれど、奈良のコンベンションの部分は、国際会議などは47都道府県の間で14番目ぐらいの件数で、大体25~26件あります。これは非常にいい展開だと思います。やっぱり理由は、奈良公園を中心とした世界遺産でしょう。それと含めてコンベンションで会議をすると、言葉でいいますと、ユニークなベニュー、そういう展開ですということなので国際会議を受けております。

次に、滞在型の観光の課題ですけれど、旅行会社でいろいろとヒアリングをしてみますと、まず、(1)京都、大阪等近郊から見た奈良とありますが、やはり日帰り圏内で泊まろうという感覚が少なく、奈良でゆっくり滞在するというイメージがやっぱり低いです。特に夜などは、早くしまってしまうということがあります。

それから（２）来訪の動機づけとしてのポイントで絶対に外せないのは、観光地でいきますと温泉とか、それから意外とショッピング、食事・グルメもポイントで、もちろん文化遺産であるとか、そういう自然というのも奈良にはすばらしくあるのですけれど、やっぱりそういう素材を生かし切れていないのではないかということと、（３）宿泊施設についても施設が少ないものですから、これからの課題だと思いますし、（４）食の魅力も先ほどグルメと言いましたけれど、特徴のある味覚が少ないイメージがあるということです。そんな中で、ミシュラン２０１１とか、それから伝統、もちろん奈良の野菜であるとか、クーカルなど、このようなすばらしい素材といたしますか、ポイントができたので、これからどういうふうに活用させていくかがポイントだと思います。（５）二次交通については、もう本当に少ない。観光地、観光スポットが散在しているので、これらをどう効率的に結んでいくかが課題になるかと思います。

引き続きまして、奈良県ビジターズビューローの取り組みについて、ご説明をさせていただきます。

まず、今申し上げたような観光の特性の中で、ビジターズビューローの取り組みということで、まずミッションについてです。奈良県ビジターズビューローの基本方針に集約されており、いろいろ理念や行動指針等々ありますけれども、要は、奈良県ビジターズビューローが平成２１年４月に（社）奈良県観光連盟と（財）奈良コンベンションビューローの機能を統合しまして、一体的、一元的に観光とコンベンションを含めて営業できるものや、あるいは販売促進して呼び込めるものについてはできるだけやりましょと、一生懸命やって、できるだけそういうものの展開でどンドン前に行きましょと、こういうことがざっくりと言えばミッションになるかと思います。

そのような中で、２ページ、組織体制に触れさせていただきます。理事長をはじめ、総務企画部、商品企画部、そしてコンベンション誘致部の３つの部門がございます。私はこの専務理事なのですが、理事長は当然のことながら荒井知事にさせていただいております。

機構についても、約款の他、３ページにビジターズビューローの取り組みの具体的な事業の柱が書いてございます。まずは奈良県の観光振興、それから誘客の促進を柱にしなから、着地型旅行商品の企画と提案、観光情報の収集と発信、またコンベンションの誘致及び支援、教育旅行マーケットの開拓と深耕、地域支援等の諸活動という大きな５項目があります。

まず、着地型旅行商品の企画と提案ですが、着地型と申しますのは、発地型は東京の地域から奈良の企画をすることですけれど、奈良を独特の特別な商品に仕立て上げて、それを売り込むと、これが着地型です。よく農業分野では、アグリカルチャーとか、それからエコであるとか、そのようなテーマでいろんなところでやっている。そういう特殊な奈良を誘致するための特別な商品に仕立て上げようというのが着地型商品企画ですけれど、その中で、オフ期をいかにやっていくかということで、ここには古事記1300年の冬の旅。ゆかりであるとか、あるいは悠久の大和のみち巡りとか、あるいは梅だよりとか、それから滞在型周遊観光として巡る奈良、奈良のむかし町など、このような企画をどんどん旅行会社や出版業者に案内するのですけれど、たまたま先週、奈良県観光見本市が開催されまして、大変成功裏に終わったと思います。私どももその見本市で、大和のみち巡りとか、お手元のパンフレットにあります縁結び、縁を結ぶというのを提案しました。これらは、すでに即引き合いがありましたので何とか商品に仕立てあげたいと、そんなことでございます。

次に4ページ、伝統を学ぶセミナーの企画と催行です。これが着地型の典型的な商品として、東大寺の二月堂の修二会のセミナーを実際に宿泊限定で実施しまして、今回で3年目になりますけれど、大変好評をいただいております。講師には東大寺の森本長老、あるいは奈良国立博物館の西山厚学芸部長さんをお願いをして、アンケートにもございますように、大変よかったということで、この3月にまた計画しておりまして、修二会はお水取りだけではないですよということもわかりながらご案内をする企画もさせていただきます。

引き続きまして、5ページ、大和路の学びのシリーズの企画と運営で、大和路歴史文化講座を、こちらはもう36回目になり、約35～36年間しています。ことしにつきましては有楽町の朝日ホールで、樫原考古学研究所長の菅谷先生と古代学研究者の辰巳先生による講座で、700名の募集だったのですけれど、何とか500名近く来られて大変人気でございます。それを含めて現地のツアーを企画するということだったのですけれど、ことしは大和の景観をテーマにツアーをやりましたが、台風12号の関係で9月出発の予定を12月に変更して企画しております。

その他、年7回の仏像めぐり等のツアーであったり、特別参拝など、これも大変好評でございます。

次の6ページ、効果的なプロモーションの活動ということで、先ほどの縁結びであると

か、そういうツアーを各旅行会社やホールセラーに売り込みに行きます。なおかつ、その中でも運送機関係の旅行会社とかカルチャー主体の旅行系会社とか、あるいは出版会社であるとか、特殊なツアーを扱っているところに企画を売り込みに行きます。ということで、もうありとあらゆるところに行っているわけです。そのようなことで企画商品の採用件数に関しましては、平成21年度は提案件数が25件、平成22年度は88件提案しまして、55件採用していただいた実績がございます。

それから7ページ、情報の収集と発信ということで、奈良県の観光情報サイト、大和路アーカイブという旅行系の情報発信をリニューアルさせていただいて、その運営管理をしながらさらに使いやすく、わかりやすいものをもっと整理をし続けたいといけないと思っています。

次に、誘致ガイドブック「知れば知るほど奈良はおもしろい」の制作配布で、キャンペーンという形にしつらえてありますけれども、情報誌です。大体24ページぐらいで、四半期に1度、18万部前後を近畿圏を中心に、駅等いろんなところに置かせていただき、キャンペーンをさせてもらっています。東京方面にも、奈良まほろば館を中心にいろんなところへ告知させていただいております。

それから大和路カレンダーは、奈良県ビジターズビューローの自主事業ですが、このカレンダーに大変ファンがついてまして、もちろん価格的には高くはないのですが、大体1万部ぐらいの制作で、大変ご好評をいただいております。

次に8ページ、コンベンションの誘致及び支援で、コンベンションの誘致目標があるのですが、昨年度の平成22年度は200件の目標のところ、結果的には236件の誘致実績がありました。これは平城遷都1300年祭の影響が非常に大きかったわけですが、今年度は210件の目標としております。しかし、3月11日の東日本大震災以降、国際会議が4件ぐらい急に取り消しになったりと、大変心配しておりましたけれど、何とか目標210件について、平成23年度はいけそうな感じでございます。

いずれにしても、このコンベンションの世界ではミス、MICEというのが1つの基軸になってます。Mはミーティング、それからIはインセンティブ、それからCはコンベンション、それからEはエキシビションです。実は奈良で一番の問題は、ミーティングとコンベンションはあるのですが、インセンティブという報奨を含めた部分のソフトが少ない。それからEはエキシビションで、展示をできるようなところが大変少ないのです。いずれにしても奈良らしく頑張ることで、この不足する部分について、いろんなユニーク



ベニューと申しましたけれど、やりながら、現在営業活動をしています。

したがって、ここの肝は地道な営業活動をいかにして、そのネットワークをどうつくり上げていくのか。また、そのネットワークを切らないようにしないといけないと。それと大変ありがたいのは、奈良県の大学、先生方は、これはもう奈良愛といましようか、とにかくコンベンションだったら奈良の特性を生かしまして、奈良でしようよということで、そういうネットワークを広げていただいております。私どもは奈良県の先生方を友軍だと、そのように思っていますけれど、大変ご支援をいただいております。

それともう一つ、特徴的なのは、奈良県内だけでなく、京都大学とか大阪大学など県外にセールスに行って、ネットワークを広げて継続しながらやっていかないといけないということでございます。

さらに、コンベンションを営業するに当たって、一番大事なのは特に企画力ですけれど、例えば、お手元に奈良のユニークベニューというチラシを配布させていただいております。それを何万部も刷ってまくということではないのですけれど、それぞれニーズがあるところにセールスをする、説明をするということで、20ページぐらいの冊子の中から一部を使い行っております。コスト面のこともあるので、コメントのある方についてはそれで説明していくということなのです。お手元のチラシではキャッチフレーズが、徒歩10分圏内に集約された奈良のユニークベニューを提案という切り口になっておりますけれど、空撮をしますと世界遺産の奈良公園を中心にして、新公会堂がありますし、ことしミュージアムを併設した東大寺総合文化センターができました。ということは、ここで会議が開催できると。しかも全部10分以内で歩いて、もし雨が降ったら傘を差さないといけないのですけれど、行けるということ。それから夢風ひろばにはレストランが10軒か8軒ぐらいあり、向かい側には奈良国立博物館があります。こちらは、夕方5時、6時以降であれば、貸し切りでミュージアムショップ、レストランでワインとかショットバーを出すこともできますし、その前に仏教館を貸し切って見学などもできます。これは、いちころという言い方はおかしいですが、大変魅力があるということで、外国人の方などはこれだけで、おお、本当にいいと感激されます。意外と日本人がこのよさをわからないのですけれど。

今回、東大寺総合文化センターができたことにより、新公会堂と2つの選択ができるようになり、そこへ夢風ひろばや奈良国立博物館と、これは本当に来ていただければすばらしい状況になります。たまたま9月にチェスという国際会議が開催されたのですけれど、国際会議に必要な会議会場、観光、飲食等が集約され、奈良らしい雰囲気を感じられたと

幹事の実行委員長がおっしゃってくださいました。当日は300人の外国人がお昼ご飯に、そろそろと夢風ひろばに集まれ、何と外国人全員がはしを使われ、それはもう見事なものでした。日本食と中華料理は多分、外国人でも、もうフォークで食べる方はほとんどおりません。静々と、2日間、はしを使ってご飯を食べられましたが、その光景はすごいもので壮観でございました。私も久しぶりに外国人があれだけ、はしを使っているのを見たのは感動でした。これは余談ですが、そんなことがありましたということで。

いかにユニークなベニューを開発していくかが重要だということです。何せ大人数が入れるところは文化会館となら100年会館ぐらいしかなく、しかも展示会場が少ないということで、1,000名ぐらいの規模で100人ずつの分科会場が要る場合は、大変難儀するのが現状です。しかし、そういうことはありますけれど、奈良らしいユニークベニューとそれからボランティアガイド等、これらを最大限に活用して営業している最中ですが、いい感じできていると思います。

それからオフ期のスポーツイベントの誘致は、全国高校ラグビー大会もそうですし、10ページに支援として、看板であるとか写真であるとか、またコーヒーサービスやボランティアによる英語対応、さらに助成金制度などを実施しております。

この9月に、国際会議・国内会議の誘致促進本部が結成、設立されて、国際会議や多分政府級の会議については、奈良県職員の中でボランティアを50人ほど用意して、対応するというようになっており、これも大きなコンベンションに対して頑張るぞというようなことかと思えます。

11ページ、修学旅行マーケットの開拓と深耕で、簡単な修学旅行用のガイドブックをつくりました。今は、合宿用ガイドブックなどをつくっているのですが、これは物すごく息の長いセールス、営業をしないとイケませんので、今のところ奈良まほろば館など関東方面に、とにかくセールスに行っております。民間の財団法人全国修学旅行研究協会を中心に、各地域の校長会、教育委員会、それとエージェントなどです。最近のグッドニュースとしては、修学旅行は減っているのですが、関東地域の校長会に対して8月に研修支援をさせていただいて、大変忙しかつたのですが、奈良県を見ていただき、改めて奈良がいいというふうに校長先生方にはおっしゃっていただきました。そのように東京方面でのセールスを8月以降11月までずっとさせていただいたら、何と平成25年度に1件、入船中学校が奈良に行こうということで来ていただけるようです。また、修学旅行については明日香村の農家民泊なども使いながら修学旅行生の受け入れをがんばっており、

これは本当に奇跡に近い営業だと思います。

観光振興においては、やはり国の始まりである奈良に、京都に逃げている部分をいかに奈良に呼び込むかを、地域と連携して一生懸命営業活動をしなさいといけないということです。

あと地域支援の諸活動で、奈良県の観光振興に功績のあった方への功労者表彰であるとか、会員向けのオープンセミナーなど実施させていただいております。

早口でざっとしゃべりましたが、以上で説明を終了させていただきます。

○藤本委員長 いろいろ資料等を整えていただきありがとうございました。

それでは、ただいま坂井専務理事からご講演をいただいたわけですがけれども、委員の皆さんから質問などがありましたら、ご発言をお願いします。

○和田委員 2つだけ簡単に尋ねます。

奈良県は記紀・万葉プロジェクト事業をやるのですが、県の事業との連携ということで、奈良県ビクターズビューローの取り組みや、計画はあるのでしょうか。

それから市町村観光協会などが一生懸命頑張っているところも地域的に出てきております。観光協会等との連携、あるいは地域支援といったものは考えておられるのでしょうか。

○坂井専務理事 まず記紀・万葉に関しまして、県との連携ですがけれど、もともと連携を意識いたしまして、オフ期における誘客において、古事記・万葉集を含めた企画をテーマとしてやっておりますので、さらに引き続いて力を入れていきたいと考えています。

それから市町村との連携に関しては、和田委員の言われるとおりでと思います。発足から3年たちまして、やはりもう一度我々は地域の方へのヒアリング等を行い、地域と一緒にいろんな商品がもしくれたらありがたいのですがけれど、商品開発を行い、なおかつ、情報をうまく発信していくことが急務だと思っております。奈良市などにはいろいろ観光協会もあるわけですがけれど、それ以外の地域の長とか、特に今回は南部地域で大水害などがあり、できるだけ地域の皆さんと意見交換をしながら、大和路アーカイブなどをうまく使いながら、商品づくりであったり、情報提供であったりというのを、現場と一緒にになりながら、担当者も決めながら連携をやっていきたいと思っております。

○小林（照）委員 先ほどのご講演でもボランティアということが出てまいりましたけれども、やはり旅に行ったときに、地元のボランティアの方が案内してくださり、地域の歴史や由緒、言い伝えなどを説明いただき本当に温かく迎えてくださると、うれしい思いがするものです。市町村でまだボランティアが組織されていないところもあるように思うの

ですけれど、ボランティアガイドと観光協会との関係やつながりなど、その辺についてはお考えになっているのでしょうか。

**○坂井専務理事** 今のところ、国際会議であるとか国内会議であるとか、そういうところのボランティアについては実務としてさせていただいておりますが、各市町村のボランティアさんとは、これからどうしようかと。ただし、着地型の商品をメインにやるときに、どうしても語り部やご案内をしていただくボランティアが必要となってきます。奈良の歴史、ヒストリー性を説明する上で大変重要となってきます。地域には対応できるボランティアさんが恐らくいらっしゃると思います。これからはもっと積極的にボランティアチェーンのようなものをつくっていくような時代ではないかと思えます。

今は自前で、特別参拝や大和路巡行の事業へボランティア又は専門の方を手配しておりますが、万葉集に関しても、これからもさらに連携体制を作らなければならないと思えます。

**○鍵田委員** 月別の宿泊者数を見せていただいたら、平成22年8月の宿泊者数が一番多いのですが、昔、奈良の夏は暑くてお客さんが少ない、だから燈花会というアイデアが出され、始まったのです。奈良は非常に夏のシーズンにお客さんが少なかった現状があったと思うのですけれど、どうなのでしょう。平成22年度だけが多いのではなく、今までも夏のお客さんは多かったのですか。

**○坂井専務理事** 間違いなく、平成22年は特に平城遷都1300年祭のイベントの関係が多いとは思いますが、意外と8月に健闘しているということは、やはり燈花会等この辺が貢献しているのではないのでしょうか。

**○鍵田委員** ということは、やはり10年ほど前だったらそんなには多くはなかったと。

**○坂井専務理事** なかったと思います。

**○鍵田委員** そうですよ。だから燈花会であって、春日大社の万燈籠であって、大仏さんや大文字などがあって多くなっていると。

**○坂井専務理事** あると思います。ただ、ベース的には平常月ももっと上がらないといけないのですが。

**○鍵田委員** だから平成22年だけの資料ではなしに、過去の推移がわかる資料があればお願いします。

**○坂井専務理事** 今手元にないので後ほど。

**○藤本委員長** 県が資料を持っていると思いますので、また提出願います。

○坂井専務理事 わかりました。あとは1月、2月に何とか、客室数が少ない館の中で宿泊者が5%でも10%でも上がれば大変いいのではないかと思います。

○藤本委員長 私から1点だけ。

京都府は7,400万人来て、1,200万人が泊まっているが、奈良県は3,500万人来ていただいているのに320万人しか泊まっていないと、7%から9%だと。対して京都府は19%、20%に近いわけです。これまでもずっと問題にしてきたのですけれど、奈良はホテルや旅館側の意識変革が必要です。露天風呂もあり、魅力ある旅館に変身しても受け入れるアピールが足りないし、そういう点で意識を変えて、もっと魅力ある奈良県のホテル、旅館を奈良市を中心にアピールする必要があるのでは、どうでしょうか。

○坂井専務理事 大変難しい課題だと思います。例えばブルガリのような雰囲気のホテルが誘致されれば随分変わるし、もっとグレードアップするのですけれど、でもそれよりもお部屋だけではなくて、少なくとも集合できるようなスペース、もう少しキャパがあるような館が、1カ所でもできれば、随分雰囲気は変わってくると思います。各ホテル、旅館は自前で一生懸命販売促進をされているのですけれど。平城遷都1300年祭の成功例や23年前のシルクロード博を考えると、ぜひ来てくださいと、ウエルカムですよと言ってしまうと、では、一体何があるのかと言われたときに、考えなくてはならないわけです。やはり一過性ではないもので、来てもらったらこれだけの素晴らしいことが奈良にはありますというのをやっていくことによって、ひょっとしたら意識が変わるかもわからない、そんな気はします。

○藤本委員長 大変な課題ですけれど、また努力していただいて、ホテル、旅館組合とも話し合いをしながら、観光客が増えるよう意識改革をするということですね。

鍵田委員がおっしゃったように、修学旅行生が3～4時間だけ奈良へ来て、泊まるのは大阪、京都だと。奈良はぱっと見て、次にほかのところへ行って泊まるという話です。修学旅行生すら十分泊め切れていない残念さが多々あったりして、今後またいろいろ県と連携してやってください。

○阪口委員 この間の報道では、7月から9月にかけて、奈良市の主要なホテルの客室稼働率が63.3%だったと聞いているのです。つまり、奈良へ来た人が奈良に泊まらないのです。そのことはさっき藤本委員長もおっしゃられましたけれど、ホテル側の創意工夫がないのかどうか。いろんな人に聞いてみるのですけれど、何で泊まらないのかと。そうしたら店が早く閉まるというのです。食べるところもあまりないと。それならば、大阪で

泊まった方が夜は楽しいという答えがよく返ってくるのです。その辺り何か考えがあればお願いします。

○坂井専務理事 公式な意見ではありませんが、いずれにしても、要は会社といたしますか、民間人が事業としてやっぱりもうからないといけないと。少しもうけようということで少しずつトライしていくことも大事でしょう。多分J Cが来て、一万人来たら、夜は多分新大宮あたりがいっぱいになると思うのですけれど、それでも恐らく京都や大阪の新地に逃げていくと思うのです。夜の商売ではないから、そのようなことしてくださいというわけにはいかないのですけれども、少なくともどこか中心的なところに、魅力あるバザールかグルメをやれば、新京極とは言いませぬけれど、にぎわいができるのでは。

例えば、奈良市はならまち会館を使って、奈良ナイトカルチャーというのをやっています。これはオフ期にやっているのですけれど、学生さんや一般の方がワンコイン、500円で伝統芸能とか、芸者さんもおりましたが何か見せてもらえるということで、やっております。これ大変素晴らしいことだと思います。つまり学校は、ちょっとでも楽しんでもらうために夜をどのように管理するのかということです。これは1つの象徴的な話ですけど、やっぱり夜を何とか奈良市であれば市の中でやるとか。まさか奈良公園で屋台はできませんけれど、要するにそういうものを積極的にやっていくとか、あるいはお土産物の開発もさらにしていくとか。「シルシルミシル」という番組でやっていたけれど、3軒のお土産物屋さんを100人の人がコンテストをして、1番を決めるのです。今はどんどんお土産物も変わってきているのですが、やり方によっては売れるのだということでもありますから、そういうもののコーナーが集約されてあるものにぎわいの1つだと思うので、いかに品よく、奈良らしくもうけるといいますか、そのような雰囲気があれば随分変わってくるのではないかと思います。

○藤本委員長 京都だったら着物を着た人は、10%から15%をタクシー代から土産まで全部割引してくれるのです。奈良も、着物店で着がえを1,500円ぐらいでレンタルして、着物姿で歩いたり泊まったりすれば、食事やレストランでいくらかでも割引をすればどうか、京都に負けているわけだから。先ほど専務理事おっしゃったように、もうけたらという燃えるような知恵を商店街も含めて、問われているのではないですか。

奈良は殿様商売みたいなところがあるのです。もう夕方になると、さっと閉まっている。そういう点ではちょっと意識を変え、知恵をださないで。

○鍵田委員 京都と同じことではなく、何か奈良に特化されたこと、奈良らしいことをや

るべきです。

○藤本委員長 いろいろと知恵を出していただいて、よく検討してください。

ほかにどうですか。よろしいですか。

それでは、ほかに質問等がございませんでしたら、本日はお忙しい中、私どもの当委員会のために出席していただき、また講演もしていただきまして、まことにありがとうございます。私ども当委員会といたしましても、きょうの講演なりご意見を今後の調査の参考に十分生かしてまいりたいと思いますので、ありがとうございます。本日は本当にまことにありがとうございます。(拍手)

(奈良県ビジターズビューロー坂井専務理事退席)

引き続きまして、本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。

本日はこの委員会の調査・審査事務であります。ポスト1300年祭の観光振興に關しまして、今後、平城遷都1300年祭のにぎわいを継続して、発展させ、年間を通じての奈良への誘客についていかに取り組むべきかという議論を深めるべき課題等についてご協議をいただきたいと思います。

どうでしょう、いかがでしょうか。

よろしいですか。それでは時間のこともありますので、ほかに何もありませんので、これもちまして、委員間討議を終わります。本日の委員会はこれをもって終わりたいと思います。どうもありがとうございました。